

〔萬葉集〕海底與津白浪立田山何時鹿越奈武妹之當見武

右二首今案不似御井所作若疑當時誦之古歌歟

遠江國
佐夜中山

〔運步色葉集佐〕佐夜中山

〔書言字考節用集二〕佐夜中山遠州佐野郡

〔和漢三才圖會遠江十九〕佐夜中山 在新坂與金谷之交峯有觀音堂

〔東海道名所圖會四〕佐夜中山 日坂の東北の方なり東海道筋荒井舞坂より東に北を兼たり故

に東北とす佐夜中山は八雲御抄にさやの中山とあり宗祇の方角抄にはたゞ小夜の山西の麓

を新坂といふとぞ宗久が都のつとといふ書にさやの中山にもなりぬこゝをさよの中山さや

の中山といふ兩説あり中納言師長公當國の任にて下り給ひける時土民はさよの中山と申侍

りけるとて中古の先達などもさやうに讀れて侍る又源三位賴政はさよの長山とぞ申ける此

たび老翁に尋ね侍りしかばさやの中山と答侍りきと云々又或が云夜のこゝろを讀ざるには

さやといふとがたりき按るに此山遠江國佐野郡也さやとさよとは五音相通なり此例まゝ多

しいにしへより名高き名所にて勅撰に古詠多し

古今 東路のさやの中山なか／＼に何しか人を思ひ初けん 紀友則

かひがねをさやかにみしがけ、れなくよこほりふせるさやの中山略

〔和漢三才圖會六十九〕宇津山 在岡部與九子間有葛細道

〔東海道名所圖會四〕宇津山 岡部より十石坂を歴て湯谷口より坂路也これをうつつの山といふ

宇津谷嶺まで壹里和名鈔内屋郷有度郡とあり今は安倍郡に屬す略

葛細道は宇津の山にあり海邊より右の方に狹道ありこれ古の細道なり予東路巡覽の時此

道を見んとて所の者を二人案内者とし備ひて此狹道を見るまづ案内者なる二人鎌を手々

駿河國
宇津山